

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・	実施機関名・連携機関名 熊本大学教職大学院
教育委員会等	事業名： 【NITS・熊本大学教職大学院コラボ研修】 これからの学校を「対話」する～子供も教師もしあわせな学校をめざして～
コラボ研修プログラム	研修等名： NITS・熊本大学教職大学院コラボ研修 これからの学校を「対話」する～子供も教師もしあわせな学校をめざして～
支援事業報告書	開催日時：令和 6 年 8 月 23 日（金）13:30～16:30 開催場所：熊本県立劇場 大会議室（熊本県熊本市中央区大江 2 丁目 7 番 1 号） 参加人数（総数）と参加者の属性： 127 人（熊本県内教職員 90 人、大学関係 26 人、県外その他 11 人）

目的：

予測困難な時代の中で、これからの学校のあり方や子供の学びのあり方が大きく変わろうとしている。その中で本研修では、子供も教師もしあわせな学校をつくることを最終的な目的として、学校に「対話」の文化を醸成することによって学校が変わり、さらに子供の学びのあり方が変わっていくことを実践事例から学んでいく。具体的な実践事例として、対話を取り入れた校内研修の取組について詳しく学ぶ。

また、参加者自身が「対話」を実際に経験することを通して、対話の効果を実感するとともに、対話の進め方を学び、今後の実践に生かしていけるような機会とする。研修のプログラム全体を通して、それぞれの参加者が、自身の「学校観」「教育観」「子供観」などを問い直し、その本質に触れることを通して、明日からの実践の活力にしていくことを目的とする。

内容：

- 1 開会・主催者挨拶（熊本大学教授 藤中隆久）
- 2 講演「学校に『対話』の文化・仕組みをつくる ～学びのゆるやかな構造転換に向けて～」
苫野 一徳氏（熊本大学教育学部准教授）
- 3 実践紹介「校内研修を『本物の学びの場』にしたい」
今林菜美子氏（福岡県古賀市立小野小学校 教諭）
- 4 ワークショップ「『対話』の魅力を味わおう」
- 5 閉式

本研修では、子供も教師もしあわせな学校をつくることを目的として、3つのプログラムを行なった。苫野一徳准教授は、学校教育の本質（目的）が合意されていないため、チームとしての協働が困難になってしまっている現状を示され、その現状を変えていくために「対話の文化・仕組み」をつくる必要があるとご講話いただいた。福岡県の小学校の今林菜美子教諭の実践紹介では、目指す児童像の共有やそれぞれの実践のリフレクションなど校内研修の様々な場面で取り組まれた「対話」を通じた実践について紹介していただいた。このような学びを踏まえ、対話体験のワークショップを行った。それぞれのグループで「学び」について本質観取をしていくことを通して、対話の効果を実感するとともに、対話の進め方や対話がもたらす効果について、体験的に学ぶことができた。

成果：

セミナー終了後にアンケートを実施（90 人回答）した。3つの質問項目について述べる。

① 本研修の満足度について（5 件法）

- ・講演 大変満足している（82 人・91%） やや満足している（8 人・9%）
どちらともいえない（0 人・0%） あまり満足していない（0 人・0%） 全く満足していない（0 人・0%）
- ・実践紹介 大変満足している（81 人・91%） やや満足している（8 人・1%）
どちらともいえない（1 人・1%） あまり満足していない（0 人・0%） 全く満足していない（0 人・0%）
- ・ワークショップ 大変満足している（82 人・91%） やや満足している（8 人・9%）
どちらともいえない（0 人・0%） あまり満足していない（0 人・0%） 全く満足していない（0 人・0%）

②自由記述

- ・本質を考えることで、考え方がクリアになり、行動が変わると感じた。そのためには、1人で考えるのではなく、他者と語り合うことが近道であると思った。(小学校教職員)
- ・講話、実践紹介だけでなく、自分達でワークショップできたことが、まさに「学び」であり、今後実践したいと思える研修でした。(小学校教職員)
- ・「学びの本質に向かって対話をする」という感覚は、自分の財産になりました。今後活かしたいと思います。(大学院生)
- ・本質をみんなで、対話で理解して、話し合っ、深めていくことがとても大切だと気づきました。本質は答えがないからこそ考える意味があって、職員全員で方向性を揃えるためには必要不可欠なことだということを学びました。これからは物事を考える時に一度立ち止まって本質を考えるようにしたいと思います。(高等学校教職員)
- ・対話を通して、合意形成していく大切さと楽しさを実感しました。学校では課題がたくさんあるが、その都度本質に戻って考え直す必要があると改めて思いました。(中学校教職員)
- ・具体的な実践を何うことができて、とても充実した時間となりました。ぜひ、自校に持ち帰り、先生方にも生徒たちにもじわじわ広めていきたいと思っています。(中学校教職員)

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

今回の研修では、「NITS からの提案（第一次）」における「参加者を主語にして、参加者自身の気づきが醸成される学び」につながったと感じている。苫野准教授には、そもそも学校は何のためにあるのかという本質的な問いを土台として、「対話」の文化を学校に取り入れることの重要性や有効性についての理論を教えていただいた。また今林教諭には、校内研修を教職員の本物の学びの場にすることを目的として、「対話」の仕組みをどのように取り入れてきたのか、その実践について情報提供していただいた。理論と具体的実践を学んだ後に、実際に物事の本質についての「対話」に参加者全員が体験できるようにした。「学びとは何か」という本質的な問いに関する「対話」を通して、参加者は自分のこれまでの価値観や認識について深く考え、他者と協働しながら気づきを深めていくことができていた。アンケート結果からも、参加者の満足度は極めて高い研修であったことがうかがえる。今回の「対話」の体験をもとに、参加者が「対話」の重要性や良さを実感し、「対話」の文化が各学校に少しずつでも広がっていくことを期待している。

アイデアや工夫したこと：

- ・後半部分の「対話」の体験のワークショップに重点を置き、時間配分を工夫しながら計画した。ワークショップの目的や進め方、テーマ設定については、講師のお二人とも何度も打ち合わせをしながら熟考を重ねた。また「対話」のグルーピングについても工夫して万全の準備を行った。実際のワークショップではどのグループも活発に対話が行われ、参加者の気づきや学びが深まっていく様子が多く見られた。
- ・環境整備として、会場については「対話」のワークショップが行いやすいように、机椅子が移動可能であり、かつ収容人数に余裕のある会場を設定した。また、初対面の参加者同士での「対話」になることを考慮して名札を準備し、「対話」を促すために模造紙とペンを用意して「対話」した内容を書き込めるように工夫した。
- ・広報については、チラシを熊本県内の小中学校に配布した。さらにSNSを活用したことにより県外からの参加もあった。また、学校を牽引する立場の方々にもより多く参加していただきたかったので、熊本市教育委員会の新任管理職研修会や経年経験者研修会にて時間をいただき、研修会のご案内と参加呼びかけを行った。



NITS・熊本大学教員大学院コラボ事業

これからの学校を「対話」する
～子供も教師もあわせ学校をめぐして～

【講演】
学校に「対話」の文化・仕組みをつくる
～学びのゆるやかな創造転換に向けて～
熊本大学教育学部准教授 沼野一徳 先生

【実践紹介】校内研修を「本物の学びの場」にしたい
福岡県筑前市立小中学校教諭 今林美奈子 先生

【ワークショップ】「対話」の魅力を味わおう

主 催：熊本大学教員大学院 後 援：熊本県教育委員会 熊本市教育委員会
申 込：QRコード又は URL <https://nits-uib.jp/>（定員になり次第、締切）
連絡先：企画担当（熊本大学教員大学院10号） 3-62-2797

NITS・熊本大学教員大学院コラボ事業

教師間の「対話」で、学校が変わる！

【講演】沼野 一徳 准教授
1960 年、兵庫県生まれ。教育学、教育哲学、早稲田大学大学院教育学研究科博士課程修了。早稲田大学教育学部 教育学専攻助教授として勤務。熊本大学教育学部准教授、専任教授、専任講師。『教師と教育学部』10 年分は読み終えたい本を著している。授業に「教師と教育学部」10 年分は読み終えたい本を著している。授業に「教師と教育学部」10 年分は読み終えたい本を著している。

【実践紹介】今林 美奈子 教諭
福岡県の筑前市立小中学校の教員として勤務。熊本市教育委員会事務局に勤務。熊本市教育委員会事務局に勤務。熊本市教育委員会事務局に勤務。

【ワークショップ】「対話」の魅力を味わおう

13:30-13:35 コラボ研修プログラム開始にあたって
13:35-13:40 開会式・挨拶・研修の趣意を伝える
13:40-13:45 対話の準備・対話のルールを確認
13:45-14:00 対話の準備・対話のルールを確認
14:00-14:15 対話の準備・対話のルールを確認
14:15-14:30 対話の準備・対話のルールを確認
14:30-14:45 アンケート記入・閉会

